

か。私、不思議でたまりませんよ。そうする前に部長か課長が注意して、頭や何かパーマとか色を入れとっては、市民に触れる前にさせてくださいよ、ちゃんと公務員らしい頭に。私、5回言うてきて、やっと動いたんですよ、私。もう公務員のモラルの欠落した職員がおるちいう。私は、どんな人間やろうかち思って行きました。そやけ、そんなのは、私、その人に言うときも、私の名前を使うとととですよ、本人に。入江議員から言われたち。そやけ、私の名前を使うで何で言うとですか、注意を。私、もうびっくりしましたよ、そういうことされて。本人から笑われましたもん、私は。「お前が言うたじゃろうが」ち言って、こんな感じで。そやけ、もうちょっと職員のモラルの欠落したのをよろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 入江議員、時間が来ておりますので、早めに。

○議員（7番 入江 有紀君） 以上です。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時5分からといたします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。会派創政の糸瀬雅之でございます。

私は、3月の一般質問の冒頭の挨拶の中で、今年是对馬市にとりまして、将来の方向性を決めるべく重要な一年になると申し上げましたが、まさに今、高レベル放射性廃棄物の最終処分場の文献調査の受入れ問題について、昨日、特別委員会が設置され、動き出しました。

来年3月で市制20周年を迎えますが、対馬市6町合併当初の人口は4万1,000人でありましたが、今現在は2万7,000人台であり、20年間で1万4,000人の人口減少であります。対馬市発足後、これまで歴代3名の市長が様々な施策を打ち出し、人口減少対策に取り組んでこられました。なかなか厳しい現状であったと思います。人口減少により、将来的に対馬市の市税や地方交付税など税収が減り、対馬市の財政運営や働き手の不足、経済の衰退など、ますます厳しい状況になることを市民の皆様は認識をしていただきたいと思います。

今回の最終処分場の受入れ問題は、文献調査に対して、国からの交付金が2年間で最大20億円、その後、市長並び長崎県知事の許可が必要である概要調査に進めば、4年間で最大70億円が交付予定であります。今後6年間の調査に対し、地方交付税は減額はされずに90億円が交付予定であります。この文献調査受入れ問題に対して、水産業をはじめ、1次産業や観光業に対し

ての風評被害により、島の経済に多くの損害を及ぼすと思われる市民の皆様も多くいること
とします。

参考実績として、2年間の文献調査を終えました北海道寿都町の片岡町長のコメントとして、
「人口2,700人ほどの小さな町は、文献調査受入れ後は、令和4年度のふるさと納税が全国
から15億円の寄附金をいただき、水産加工品や魚介類の返礼品の売上げが好調で、水産関係は
風評被害どころか経済効果が上がり、観光客も増加傾向にある。そして、何とんでも国に対し
て様々な要望や意見が言える。交付金を町民のために使うことにより町に活気が戻りつつありま
す」と、片岡町長に私は直接電話をし、話を聞いて確認をしております。ですから、1次産業の
皆様は安心して、風評被害を恐れず、自信を持って対馬の海を守っていただきたいとします。

文献調査による20億円の交付金の使い道、私、個人的な考えは、まず、対馬に来島する観光
客をはじめ、全ての皆様の航空運賃、フェリー・ジェットfoil等の航路運賃の割引制度の導
入、18歳未満の子供たち、子育て政策として、保育料、医療費、給食費等の完全無料化、1次
産業に対し餌代・燃料高騰対策費、そして、やはり最大のメリットは、対馬の抱えている問題点
や要望など国を動かし、様々な補助金の予算獲得ができるのではないかと考えております。対馬
島民全てが生活が豊かになるために、交付金を活用してはどうかと考えております。

私は、文献調査に推進の立場で、ケーブルテレビを通じて市民の皆様には訴えたいのは、今後、
結果がどちらになろうとも、終わればノーサイドの気持ちで、決して市長、市議会議員、市職員
に対しての誹謗中傷、迷惑メール、迷惑電話、市民同士の対立・分断は決してやめていただきた
いと考えております。どうか市民の皆様、よろしく願いいたします。

それでは、通告をしておりました一般質問に入りたいとします。

まず1番目、入札制度の改革についてでございます。

近年、物価や資材の高騰の影響により、公共工事の設計価格が上昇しており、土木・建築工事
に関するAからDランク別による入札発注基準価格の見直しが必要と思われませんが、今後の対馬
市のお考えをお願いいたします。

2番目。対馬市が発注する業務委託、設計、物品等の入札における最低制限価格の見直しがで
きないか、答弁のほうをお願いいたします。

次に、2番目、対馬博物館についてでございます。

対馬博物館がオープンして1年が過ぎましたが、当初計画と実際の来場者及び収支決算はどう
であったか、市長の答弁を求めます。

また、市長は、令和4年3月の春田議員の一般質問の際に、将来的に民間への委託を考えてい
るという答弁をされましたが、今後は、来場者次第では本市の財政に影響を及ぼすと思われま
すが、市長の答弁をお願いいたします。

最後、3番目、北部地区アクションプランの計画についてでございます。

北部地区、いわゆる上対馬町、上県町には、対馬島民、島外観光客、韓国人観光客が訪れて、満足して魅力ある観光地整備が不足であると思われませんが、今後の振興整備計画について市長の答弁をお願いいたします。

以上3項目4点について、答弁のほどよろしくをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、近年、物価・資材等の高騰による設計価格が上昇しており、土木・建築工事に関するランク別による発注基準の見直しが必要ではないかとの質問でございますが、市が発注する建設工事につきましては、現在、土木一式工事、建築一式工事をはじめとする8つの工種について2段階から4段階に格付を行い、そのランクに応じて、工事別の発注基準に照らして入札を行っているところでございます。令和4年度の土木一式工事を例に、ランクごとの契約状況は、Aランクが20件、Bランクが17件、Cランクが11件、Dランクが3件の契約状況となっているところでございます。Dランクの契約数が少ない状況ですが、各担当課で発注する130万円以下の小額な修繕工事等は、主にDランクの業者が契約をしており、全体で見ると、どのランクも公平な受注機会が確保できているものと考えているところでございます。

しかしながら、議員がおっしゃるとおり、物価・資材高騰により、本来であればCランクに発注する工事が、Bランクでの発注になっている場合もあると認識しております。長崎県におきましても、令和5年4月から発注基準の見直しを行ったと聞いておりますので、市におきましても、来年度に向けて、公正な入札制度を確保しながら業者の受注機会を拡大する方法がないか、指名審査委員会で検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、業務委託、設計、物品等の最低制限価格の見直しについてでございますが、市の入札におきましては、対馬市建設関連業務委託及び役務最低制限価格制度要綱に基づき、設計金額が50万円を超える請負契約を対象に、設計金額に対して75%の最低制限基礎価格を設定しております。この基礎価格に入札会場での抽せんにより、100%から100.99%の抽せん率を乗じて最低制限価格を決定しているところでございます。物品の購入につきましては、最低制限価格は設定しておりません。

入札の落札率の状況は、令和4年度の建設関連業務で予定価格の89.66%、役務の提供で落札率88.73%の状況となっており、おおよそ90%と高い落札率となっております。

しかしながら、市といたしましても、現在の最低制限価格が適正な価格となっているのか、設計業務委託だけでなく建設工事も含めまして、県下の状況も見ながら指名審査委員会で検討を進めてまいりたいと考えております。

また、物品につきましては、地方自治法施行令第167条の10第2項に、工事または製造その他についての請負の契約を締結する場合において、当該契約の内容に適合した履行を確保するため、特に必要があると認めるときは最低制限価格を設定することができるとなっておりますが、一方、物品の入札につきましては、請負契約ではなく売買契約となるため、現状では最低制限価格を設定することができないこととなっておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

次に、2点目の対馬博物館についてでございますが、対馬博物館の1年目、令和4年度は、約3万8,000人の入館者がありました。収入の内訳は、観覧券購入者約2万人の観覧料収入として約920万円、このほか県負担金が2,257万3,000円、雑入が280万円、指定寄附金が500万円など、約4,261万2,000円の収入がありました。

一方、支出の内訳は、光熱水費や消耗品費、建物施設の維持管理として約7,700万円、平常展示や館の運営に係る経費が約6,000万円、年2回開催した特別展の開催経費が約2,000万円となっております。このほか、広告掲載に係る経費等が約500万円、資料購入事業として約1,000万円など、博物館費全体では1億7,750万4,000円の支出となっております。

平成29年12月の議員全員協議会で説明いたしました年間管理運営費におきましては、約7万人の有料入館者と8,508万5,000円の収入、1億3,560万7,000円の支出を見込んでおりましたが、令和4年度の実績は先ほど申し上げたとおりでございます。国際航路の休止及び新型コロナウイルス感染症の拡大により、外国人観光客の来館が皆無だったことが影響しております。

博物館の運営方法でございますが、令和4年第1回定例会におきまして、春田議員の一般質問にお答えしたとおり、当面は市の直営で行いながら、持続可能な運営方法について検討してまいります。その方法や時期については、まだ明言はできません。

現状としましては、受付カウンターでの来館者案内や観覧券の販売、展示室内での資料の監視について、民間事業者に委託をしているところでございます。

次に、3点目の北部地区アクションプランについてでございますが、現在、中対馬地域では、平成30年3月に中対馬未来づくりアクションプラン、また、南部対馬地域では、令和4年2月に厳原南部地域アクションプランを策定し、計画的なまちづくりが実施されていますが、北部対馬地域についても、両計画に先駆け、平成18年3月に対馬「北の玄関口」地区まちづくり協働プランを住民主体で策定し、目指す将来像を20年後——令和8年となりますけれども——の姿と位置づけ、交流人口の拡大と安心して住めるまちづくりに取り組んでまいりました。具体的には、比田勝地区におけるまちづくりの拠点の整備、舟志地区における廃校舎の利活用、交通や医療など離島特有の様々な問題解決の検討などでございます。

また、平成26年2月には、比田勝港から殿崎、三宇田浜までのエリアを対象とした観光リゾートイメージ図を作成し、観光客の受入体制の強化にも取り組んできたところでございます。

「北の玄関口」協働プランと観光リゾートイメージ図に基づく取組実績としましては、ホテルの誘致、三宇田キャンプ場のリニューアル、殿崎トレッキングコースの整備、舟志廃校舎の活用などが挙げられます。

「北の玄関口」協働プランは、策定から間もなく目標として設定した20年を迎えようとしております。その間、私たちを取り巻く国際情勢、社会自然環境は大きく変化し、本市の地域づくり、まちづくりにも多大な影響を与えています。北部対馬地域においても、時勢の変化による韓国人観光客の急増・急減に地域経済が翻弄されたことは、記憶に新しいところでございます。現在は、関係各位の御尽力により韓国人観光客は回復傾向にありますので、このタイミングを好機と捉え、「北の玄関口」協働プランのこれまでの取組内容を検証した上で、現状に見合うよう、計画内容を進化させる必要があると認識しております。

そこで、北部対馬地域の活性化を図るに当たって、本市の地域づくり、まちづくりの指針であります第2次対馬市総合計画のほか、対馬市観光振興推進計画、対馬市SDGs未来都市計画等の基本方針を踏まえ、緊急性の高い案件につきましては迅速に対応しつつ、令和6年度中に「北の玄関口」協働プランのバージョンアップに着手したいと考えております。

プランは、上対馬振興部管内の上県町、上対馬町を対象エリアとして、地域資源を活用した観光コンテンツの造成や地域課題の解決に向けた取組などを盛り込み、北部対馬地域の交流人口の拡大と地域住民が安心、安全に暮らせるまちづくりに、総合的かつ計画的に取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 市長、ありがとうございます。市長が結構しゃべられたので、私の時間があまりありませんけども、まず、入札制度のほうからちょっと質問をしていきたいと思っております。

今、対馬市のほうは、入札制度のほうは変わっていません、長崎県は、令和5年度、本年度より資材の高騰等により工事別発注基準が変更になっており、AからDランク各種工種によっても入札の基準が変わり、見直しができております。対馬市が見直しができない理由、これは今どのようなことが考えられるのか、答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 対馬市におきまして、この基準を変更することはできないということではありません。先ほど答弁いたしましたとおり、県の基準等の見直しの変更も参考にさせてい

ただきながら、対馬市は対馬市としての、また基準が若干違いますので、そこら辺で令和5年度中に見直しを行いまして、令和6年度から変更ができるように取り組みたいという思いを持っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今年度中に見直しをして、令和6年度から県に基づいたような基準に、参考にし行っていくということを今お聞きしましたので、期待をしております。

最近、市長、入札結果を閲覧していますと、やはり入札の辞退、こういった入札の結果が多く見られますが、やはりこれは技術員不足とか、いろんな部分が考えられると思います。市長はこの辞退についてどのように考えられているのか、お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身、入札の辞退が多く出るということで、いかんというふうには思っておりますけども、いろいろなその事情等を聞いてみますと、確かに従業員不足が大きな問題になっているとのことであります。そこで、対馬における全体的な人口減少が、土木・建設業界のほうにも及んできているのではないかなというふうを考えているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） やはり人口減少によって働き手もこれからますます、土木に限らずいろんな部署で、これは働き手の不足というのはもう待ったなしで進んでおります。この対策として今からいろんな部分で進めていかなければ、これはもう対馬にとっては大変な問題になっておりますので、そこら辺をよろしくお願いします。

それで、最低価格についてですが、今、対馬市は、建設コンサルタント関係の入札関係の最低価格は75%。ちなみに、ほかの自治体、長崎市は80から82%、佐世保市80%、大村市も80%。各自自治体の最低価格を調べてみますと、コンサル、その辺の関係、設計とか、そこら辺はもう上がっております。土木・建築に関しましては、90から92%という数字が上がっておりますので、ぜひ対馬市も、市長が先ほど今年度中に見直しをするということでは言われていたもので、今年度中に見直しをして、ぜひ最低価格をほかの自治体と同じようなところまで検討をしていただけたらいいと思います。

そして、今、対馬市で問題になっているのが、長崎県は既に電子入札を、長崎県もほかの自治体も導入をされております。対馬市としてこの電子入札の導入の時期、また、システムを導入する際の予算、そこら辺はどれぐらいの予算を考えられているのと、あと、時期的なものはいつかということ、木寺部長のほう分かったらお願いします。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） 電子入札制度の件なんですけど、一応こちらのほうで調査をいたし

ましたところ、県内、長崎県を含む9自治体が制度を導入しているということでございます。それで、時代の流れからいって、デジタル化の推進を図る意味でも、今後、検討が必要になってくるのかなとは考えております。

今年度に電子入札システムの共同実施の動きがありますので、対馬市もこれに参加していくのか、その辺りも含めて検討していきたいと考えております。

あと費用の件なんですけど、一応いろいろ調べてはみたんですけど、導入経費として、単独でやった場合は900万円程度で、あと維持管理経費、運用費ですね。毎年の運用費、これも約900万円程度かかるということ聞いております。それで、例えば、共同で実施するようになった場合に、その辺りの負担がどうなっていくのか、今後、研究していく必要があるのかなと考えております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） この電子入札は、対馬市は確か予算が900万、先ほど言われましたけども、もうよそもやられていますので、対馬市もぜひこの電子入札制度の導入を考えないと、やはり今、いろいろとDX化で進めていく中で、そこら辺はやっぱり対馬市としても遅れてはいけないと思っておりますので、ぜひそこは令和6年度から、先ほども令和5年度中に考えるということで、本年度、ほかの部分について考えますので、令和6年度からもし導入できれば、ぜひ一緒にスタートをしていただきたいと。これは要望です。お願いします。

この電子入札について、やはりメリット、デメリットがあると思いますが、メリットの部分をちょっと木寺部長のほうに、何が電子入札についてメリットがあるのか、答弁ができればお願いします。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） 電子入札制度のメリットということなんですけど、今現在、入札というのは、各業者集まってもらって入札を行っているんですけど、それについて電子入札制度を導入した場合については、それぞれもうネット上でできる。事務局のほうもその辺りの手間を省けるということで、その辺りがメリットになってくるのかなと思います。

デメリットとしては、ネット上で行っていきようになりますので、不具合であったりとか、セキュリティの関係があったりとか、その辺がちょっと危惧されるところでございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。メリットとして、今、北部地区から入札会場まで、厳原まで、比田勝の建設会社とかいろんな業者の方、上地区は常に厳原で入札に行か

なければなりません、市の工事はですね。県の工事は、もう既に電子入札が入っていますので、地元でできますが、やはり移動時間や移動経費、こちらが低減できますし、やはり入札参加の機会がもっと増えるんじゃないかなと、電子入札をすることによって。それで談合の防止。何といってもやっぱり書類作成。書類作成等で手間が省けます。市長は今、ごみゼロ宣言を掲げていますので、やはり紙ベースの入札から、デジタルに早急に変えていただかないと、対馬市はほかの自治体に比べ10年ぐらい、市長、この件については遅れていると思いますので、ぜひよろしくお願いしておきます。

次に、博物館について質問をしたいと思います。

これは、博物館は平成27年度より工事が着手されて、令和4年3月に完成し、約7年の工事期間でありました。総工事費が40億5,800万円を計上をされております。

その中で、先ほども市長のほうが今後の件について、やっぱりこれは市民の皆さんが一番思っていることなんですよ。市民の皆さんは、この博物館を造ったことによって、どれぐらいの返済があるのか、そこら辺をもう少し詳しく答弁をお願いしたいと思いますけども、今、私の調べている中では、工事にかかった分、国・県の支出金が約3億9,200万円で、合併特例債等の地方債、これが29億7,800万。これは、70%ほどは交付税措置で戻ってくるということで、30%が返済をしなければならない。約9億から10億円の返済。9億円の返済を、平成30年度より開始をしているということを耳にしておりますが、返済の完了予定を令和23年度というふうに聞いております。そして、一般財源をここにも約4億、3億5,000万円ぐらい使われております。これを一番心配しているのは市民の皆さんでございますので、この赤字になっている補填をどこの財源から今後、持ってくるのか答弁をお願いします。返済についてです、今後の。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） お答えいたします。

今、糸瀬議員が言われたように、地方債の償還、借入れですね。29億7,800万円で、70%が交付税で措置されるということになっております。それで、あとの30%の財源をということなんですけど、これは、その年によってどの財源を充てるのかというふうに、まだはっきり決まっているわけじゃないんですけど、一応そのときの基金を充てたりとかになるかと思えますけど、それははっきりはまだ決まっていません。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ちょっと今、歯切れが悪い答弁だったと思いますけども、まず、今年度も、博物館の予算として、博物館に関する予算、特別展を年に2回、2,400万円を計上しております。博物館教育普及事業493万円、博物館資料修復・複製製作事業に550万円、

合計3,440万円ほど一般財源、その他財源から予算を組まれています。この財源は、どこから持ってこられた財源なのでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） お答えいたします。

私、財政のほうではございませんので、細かくどういったところからかというのは申し上げることはできませんけども、大卒ふるさと納税の基金からの繰入れと、それから、大きくは、もう基本一般財源であろうかと、私のほうでは理解しております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ふるさと納税から基金の切り崩しで多分やられていると私も認識をして、一般財源、要するに、市民の税金ですよ。市民の税金を3,440万円、今年予算に使われていると認識しております。

それで、市長は、春田議員が令和4年3月の質問の際に、先ほども答弁がありましたように、しばらくは市の直営で運営をしていく、将来的に民間委託や指定管理を考えていくと答弁をされましたが、このような大きな博物館を私は指定管理等は大変厳しいんじゃないかと思われませんが、市長、何か施策はあるのでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今現在、具体的な施策はありません。この前の春田議員のときも答弁いたしましたとおり、今、壱岐の博物館のほうも、もともと指定管理を行っていた事業者のほうから辞退をされまして、別の指定管理のほうになっているというふう聞いておりますし、離島の場合はなかなか、そのような多くの学芸員とか専門員を雇用された事業者がなかなかいらっしゃらないというようなことで、本土のほうから見られるにしても、やはりそこについては厳しいものがあるというふうには聞いております。そういうことで、先ほども申しましたように、今の時点ではいつから、じゃあ、そういうふうな指定管理制度を取り入れるのか明言はできませんけども、このことについては、今後もいろいろな方面から研究をしながら、最適な運営体制を目指してまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） いや、市長、今のところ案がないんじゃないかと、これはどんどん毎年市民の税金を使うんですよ。市民の税金を使いながら、基金を崩しながら3,000万も4,000万も毎年毎年、それに人件費とか、空調関係も全て使っていくわけですよ。それをやっぱり市民の方は、心配をしているところが一番そこなんです。ですから、この財源については厳しいなら、やはりこの博物館自体をもう見直す時期に、もう一年で来ているわけですよ。そう思いますけども、多分市民の方、職員の方も思っていると思いますよ。あの博物館どうする

んだらうかなと。ですから、市長の、今、任期中に方向性をしっかりと決めていただいて、この博物館を市民が納得をして利用できるような博物館にしていかないと、建物が建ったからそこで終わりではなくて、これは対馬市民皆さんが思っています。私はそのことを言って、次の質問に入りたいと思います。よろしいでしょうか、市長。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに今現在の運営は、厳しい状況ではございます。先ほども答弁いたしましたとおり、令和4年度はやっとコロナから少しずつ回復をしてきたという中でございましたし、特に今年になって4月、5月というのは、国内観光客も増えてきている状況でありますし、入館者も実際に増えてきている状況であります。それとあわせまして、対馬博物館のももとのコンセプトと申しますか、やはりここは対馬を大きく売り出す施設というようなことで、この博物館の建設によりまして、国内観光客、そしてまた、歴史好きな方たちは対馬に多くおいでいただいているものというふうに私自身も考えておりますし、いろいろな関係者に聞いてみましても、やはりこの対馬博物館の存在の意義が大きいというような話を聞いているところでございますので、今後ともよりよい博物館の運営に向けて努力をしまいたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） じゃあ、期待をしておりますので、よろしく願いしておきます。次に、北部地区のアクションプランについてお尋ねを申し上げます。

今現在、三宇田、それから、韓国展望所など改修は行っているのは分かっておりますが、あと三宇田地区に関して、韓国展望所、将来的に何年ほどの計画の予定であるのか、原田振興部長、もし計画が分かりましたらお願いします。

○議長（初村 久藏君） 上対馬振興部長、原田勝彦君。

○上対馬振興部長（原田 勝彦君） 先ほど市長のほうから答弁がありましたけども、新しいプランのアップデートと申しますか、そのお話が出ました。それで、当然、策定委員会を立ち上げる必要があります。当然その中で、住民の方、また学識経験者、いろんな方を交えて、先ほど市長の答弁の中でもあったように、上対馬振興部地域、この先のプランにおいては、比田勝地区ですかね、「北の玄関口」ということでプランを策定されておりましたけども、当然その中で観光コンテンツの掘り起こし、今、越高の文化遺跡ですか。そういったところも交えて、いろんなお話し合いがあると思います。そういったところを含めて検討をしていきたいと、そういうふうに考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 上対馬地区は、やはりそういったいろんな観光地がございますけど、私が思うのは、上県町の観光地、これがやはり不足であるということで、今回このような質問をまた再度させていただいているんですけども、市長にちょっとお尋ねなんですけども、市長がもし上県町に大切なお客様を観光として連れていく場合、市長はどこに上県町の観光地として連れていかれますか、考えは。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 上県町につきましては、いろいろな観光施設がございます。まず、私が行くならば、異国の見える丘から韓国を展望をしていただいた上で、佐護の野生生物保護センター、そしてまた、仁田の目保呂ダム、対州馬の放牧場、そういったところを案内をしながら、自然豊かな環境の中で共にアクティビティを楽しんでいただけるようなところに案内をしたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、市長、いろいろと観光地を言われましたけども、やっぱり整備、ずっと旧上県町時代から変わっておりません、上県町は。ほかの地区はどんどん観光地が整備されています。上県町だけ整備が、市長、遅れています。私、市長の今、答弁の中で千俵蒔が出なかったんですけども、含めて韓国展望台ちゅうことですかね。私は、やはり千俵蒔が大変すばらしい場所で、あそこにお客様は連れて行きます。

私は、一般質問でいつも千俵蒔を、村井部長のほうにもどうかあそこをならないかということで、いつも尋ねていました。ロープウェイ構想ですね。井口浜から千俵蒔に向けてのロープウェイを通じて道路が改良できなければ、まだその気持ち、私、変わっておりませんので、部長、部長の気持ちはどうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） ただいま上対馬の原田部長のほうから計画についてのお話があったように、基本的には策定委員会等がつくられて、そこから北の玄関口のこれまでのプランにブラッシュアップをかけていくというような予定を、今、されているようでありますので、そういったところでの委員会等でのいろんな御意見等、学識経験とか地元の方の意見を聞きながら、千俵蒔についてどういったことでどういう方法で進めていけばいいのか、どういう形がいいのかというふうなことを含めて、私たちも対馬全体を、観光を預かる者としては、上対馬と上県と一緒に盛上げていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。先ほど市長のほうからも、上対馬のプラ

ンちゅうのは以前、計画がなされていたということで、平成26年度にも財団法人シンクながさきという会社が、北部地区の市民と共同で将来の観光リゾートイメージ図を作成し、これ資料として私もいただきました。現在の上対馬北部地区ですね。その辺をもう少し予算を、上対馬地区に予算をほしいということで思っておりますので、ぜひ今後、上対馬、上県町の両方を計画を、これはやっぱり行政だけでは大変難しい問題でございますので、やはり市民を交えて、これは市民を交えて、いろいろな振興計画を策定をしていってほしいと思いますので、ぜひ原田部長、田村所長をはじめリーダーとなって、今後しっかり北部地区の整備計画について考えて、市民と一緒に動いていっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ちょっと時間が2分ありますけども、私はいろいろと要望いたしまして、今日の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時5分からといたします。

午前11時54分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。11番議員、対政会の小島徳重です。

午前中、糸瀬議員が、本議会是对馬のありようを決める重要な議会であると、そういうふうに発言されましたが、私も全くそのように感じております。私、初当選以来、これまで10年間の間で、毎回、一般質問の場に立たせていただいて、今日、41回目を迎えます。その中でも、初めてこの質問の席に立ったときの緊張感以上に、今日は緊張した気持ちでこの場に臨んでおります。対馬の将来を決定する、その重要な場で、比田勝市長がよりよい判断をされることを願いながら、私は、核ごみ処理場、最終処分場は対馬には必要ないという反対の立場で質問をさせていただきたいと思います。

それでは、通告に従い、2項目お尋ねいたします。1項目めの①のところは取下げをさせていただきましたので、御了解をいただきたいと思います。

1項目め、対馬市SDGs未来都市計画及びアクションプランのビジョンと、高レベル放射性廃棄物最終処分場の整合性についてお尋ねします。

原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定の第一段階である文献調査への応募を議論すべきであるという意見や、文献調査への応募を求める動きがあり、本議会に請願を出されて